

授業科目名	【Gカリキュラム】 日本法制史Ⅰ ※本年度は開講せず 【EFカリキュラム】 特殊講義（法史学Ⅰ）	その他参照	開講年次	【G】3 【EF】3	単位数	【G】2 【EF】2
科目区分	専門科目：【G】教科及び教科の指導法に関する科目（中社・地歴・・・）／【EF】教科及び教科の指導法に関する科目（-・地歴・・・）					
担当形態	単独	【G】教員の免許状取得のための（中社選択・地歴必修・・・）科目 【EF】教員の免許状取得のための（-・地歴必修・・・）科目				
施行規則に定める科目区分又は事項等						
サブタイトル	古代・中世日本の法制度とそれを取りまく社会	担当者	田中 秀典			
授業概要	<p>【概要】</p> <p>本講義では、古代から中世にかけての法をめぐる歴史的な事象の理解を目指し、さらにそこから日本における法の性格について考察する。法が生まれる社会的な文脈を把握することを通して、法の普遍的な性格およびその時代における特殊性について考えたい。また、私たちが普段から学び用いている、現在に至る法への歴史的なアプローチを通じて、現行法をより理解するための基盤を形成するとともに、現代的な法のあり方を相対化する視座の獲得も目標として授業を展開する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>日本の古代・中世における法と社会について学ぶことにより、①法の役割とその変遷、②法や制度に関する歴史的な知識、③現行法への客観的な視点、以上の3点の理解・獲得を目指す。</p>					
履修条件	日本史に興味があり、積極的に講義に参加する学生の受講を希望する。 日本法制史Ⅱをともに受講することが望ましい。					
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <p>適宜資料を配布する。</p> <p>【参考書】</p> <p>田中秀典編『史料 日本の法制度 古代・中世・近世編』DTP出版</p>					
授業回数	授業内容					
1	法学における歴史的アプローチの意義－古代・中世の法から		予習：古代から中世にかけて関心のある法をピックアップする。復習：現在の法に対する歴史的アプローチの方法と意義について考える。			
2	法の「はじまり」－大化改新以前の法と社会		予習：氏姓制度について調べる。復習：記紀から読み取れる「法」の概念について検討する。			
3	冠位十二階・十七条憲法の制定背景と意義		予習：十七条憲法の条文を取り上げ、その内容と目的を考える。復習：十七条憲法が制定された政治的契機について考察する。			
4	大化改新と律令国家への船出		予習：「改新之詔」の内容を確認する。復習：班田収授制度と租税制度について考察する。			
5	律令の継受		予習：「華夷秩序」をふまえながら、隋と唐について調べる。復習：日唐の律令の相違について考察する。			
6	養老律令の構成と復元		予習：天智朝から桓武朝に至るまでの政治の変遷について調べる。復習：政治的背景をふまえながら、編纂された律令とその意義を考える。			
7	戸籍と計帳にみる律令的人身支配		予習：「改新之詔」における戸籍と計帳について整理する。復習：律令における国家機構について考察する。			
8	荘園の展開にみる土地制度の変遷		予習：荘園制について調べる。復習：荘園の展開にみる土地制度と支配の関係について考察する。			
9	律令における身分と刑法		予習：律令導入以前の身分と刑法について整理する。復習：律令の身分制度と刑法の関係について考察する。			
10	律令制下の社会と家族法		予習：律令導入以前の社会と家族について整理する。復習：律令が想定する人間関係の秩序について考察する。			
11	武家政権の誕生と中世の法秩序		予習：鎌倉・室町幕府の成立について調べる。復習：中世の法秩序における武家法の意義を考える。			
12	御成敗式目の制定と理念		予習：鎌倉幕府が掲げた政治方針と展開した政策について整理する。復習：具体的条文への考察を通し、御成敗式目の性格について考察する。			
13	鎌倉・室町幕府の裁判制度		予習：鎌倉幕府の機構について調べる。復習：律令刑法と鎌倉幕府刑法との違いについて整理する。			
14	戦国大名と分国法		予習：戦国大名が誕生した社会的背景について調べる。復習：喧嘩両成敗法について考察する。			
15	古代・中世における法への歴史的な理解		予習：前回までに学んだことを整理する。復習：古代・中世における法のあり方について考える。			
評価方法	毎回の授業内での小レポート等【30%】・期末レポート【70%】で評価する。					
評価基準	上記授業単元の内容について、法に関する歴史的知識を身につけその意味をよく理解するとともに、現行法への相対的な視点を獲得して法史学を学ぶ意義を理解し、それを適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」評価とする。理解や表現に不適切な点のある者にはその程度に応じて「B」または「C」とし、理解自体が不十分な者にはその程度に応じて「D」または「E」とする。レポート未提出など、評価不能の場合は「F」とする。					
その他	レジュメや、背景となる歴史的な事象に関する資料を配布して講義を進めるが、履修者は高校卒業レベルの日本史および古文・漢文の基礎的な知識を身につけていることが望ましい。「予習・復習」で示したポイントを参考にしつつ、積極的な姿勢で学んでほしい。なお、「予習・復習」の時間はそれぞれ120分程度を目安とする。 ※G 判：法【選択必履修（ス）】 判【選択必履修（ス）】 情【選択必履修（ス）】／EF 判：法【-】 判【-】 経【-】					